

管理職研修会 実践発表

金立小学校教育の質的改善

～新たな校内研究の取組の提案～



金立小学校ホームページはこちらからどうぞ
<https://www.education.saga.jp/hp/kinryuu-e/>

佐賀市立金立小学校
校長 副島 和久

はじめに

- 学校としては日常？ 校内研究の営み
- それは本当に教師一人一人のためになっているのでしょうか？
- 教師にとっての「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両立は可能でしょうか？
- 学校の中の「当たり前」を少しだけ見直してみる試み

金立小学校の先生方をお願いしていること

- 私たちの仕事の基本は、「子どもたちのためによい仕事をする」
 - いろいろなことに取り組む際に
 - ①「何のために このことを行っているのか？」
 - ②「このことを行うことで 子どもにとってどんな力がつくのか？」
 - ③「子どもにとって どんなよいことがあるのか？」
 - 途中や最後には、
 - ④「このことを行うことで 本当に目指すべき力はついているのか？」
 - ⑤「子どもたちにとって よいことになっているのか？」
- ということを振り返り、必要に応じて、見直しを図る。

金立小学校教育の質的改善

「質的改善」とは

- これまで取り組んできたことに対して「**それは何のために行っているのか**」「**そのことで子どもにどのような力が付くのか**」「**果たして本当に力は付いているのか**」といったような視点で見直しを図り、本当に意味のある取組としていくこと
- 新たな手立てやアイディアの導入を否定はしないが、それ以上に、まずは、今、取り組んでいることの質を上げることに注力することを求める。

私を感じていた これまでの校内研究における課題

- 「研究授業を行うこと自体は勉強になるが、そのことと普段の授業がなかなか結び付いていない」「授業研究会で学んだことを日々の授業に生かすことができていない」という声を聞く。
- 研究授業自体が一種のショーのようになっており、たくさんの先生が押し寄せてきて、授業者も子どもも明らかに日頃とは異なるテンションで、普段は行っていないようなことを行っており、日常とはかけ離れている感がある。
- 何となく全体的な「させられ感」が拭えず、研究主任になった先生は苦勞をしていた。
- 若手教師とベテラン教師では自らの課題も異なると思う。

個々の教師の課題解決を図る校内研究

【研究の目標】

- 「授業づくりチェックシート」を基に、教師一人一人が自らの「強み」と「課題」を明らかにして、継続的に授業力向上を図ることで、児童が「主体的・対話的」に学ぶことできる授業を展開し、児童一人一人の「深い学び」の実現をめざす。

【研究の方法】

- (1) それぞれが年間4回の小グループ授業研と振り返り
- (2) 「授業づくりチェックシート」を活用した授業の見直し
- (3) 学期に一度と長期休業中の校内研で全体共有

校内研究のおおまかな流れ

年度初め



事前→授業実施→事後

このサイクルで、各自、年間4回 実施する。

年度の終わりに各自が
自らの課題解決の営みや
その状況について、
一年間の振り返りを行い、
レポートとしてまとめる。

↓
「研究のまとめ」

校内研究の流れ その1 【年度初め】

- ① 「授業づくりチェックシート」を基に、自らの「強み」「課題」を洗い出す。
- ② 自らの授業における課題、及びその改善の手立てについて個人で考え、小グループ内で情報交換を図ってブラッシュアップする。
- ③ 各自が、授業を実施する教科、時期、単元(題材)などの計画を作成する。
- ④ 全体研において、それぞれが取り組む課題や授業実施計画について公表し、全体で共有する。

授業づくりチェックシート

金立小学校 授業づくりチェックシート

※ ステップ1は、日々の授業を行うときに、常に気をつけてほしいことです。

※ いろいろな教科で幅広くチェックしてあることが大切です。

※ 常に、このチェックシートを手元に置いて、日々の授業について振り返ってみましょう。

Step 1

☐ 本時の目標（めあて）を必ず板書するなどして提示している。（提示した。）
また、その目標（めあて）は児童にとって適切である。（適切であった。）

☐ 本時の目標（めあて）に対する適切なまとめを行っている。（行った。）

☐ 取り組む問題や課題は、本時の目標（めあて）とつながっており、児童が取り組みたい（取り組みそうだと、取り組みまいといけない）と思えるものになっている。（なっていた。）

☐ 本時の目標（めあて）に対する適切なまとめを行っている。（行った。）

☐ 取り組む問題や課題は、本時の目標（めあて）とつながっており、児童が取り組みたい（取り組みそうだと、取り組みまいといけない）と思えるものになっている。（なっていた。）

☐ 授業の終りに、本時の目標（めあて）を確認している。（図っていた。）

まずは、目標を……

令和3年度までの本校の校内研究において独自に作成していた「授業づくりチェックシート」を見直して、現在の形とし、令和4年度から、個々の教師が、日々の授業を見直す際に用いている。今年度は「適切」の部分をもさらに具体化する予定

- ☐ 本時の目標（めあて）を必ず板書するなどして提示している。（提示した。）
また、その目標（めあて）は児童にとって適切である。（適切であった。）
- ☐ 本時の目標（めあて）に対する適切なまとめを行っている。（行った。）
- ☐ 取り組む問題や課題は、本時の目標（めあて）とつながっており、児童が取り組みたい（取り組みそうだと、取り組みまいといけない）と思えるものになっている。（なっていた。）

「強み」と「課題」の洗い出し

令和5年度 小グループ研 個人の強みと解決に取り組む課題 一覧

番号	学級	氏名	強みと考えられること	今年度解決のために取り組む(取り組んでいる)自分の課題
1	低学年担任	A先生 (教職6年経過)	○丁寧に見通しをもたせること ○ルールを一つ一つ確認し、徹底できるように粘り強く指導すること ○配慮を要する児童にいろいろな手立てをとること	◇前時までを振り返ってから、本時のめあてを立て、毎時間、板書することを心がける。 ◇1時間の振り返りをする(少しずつ言葉で書かせるように練習していく) ◇学習のルールを再確認しながら、ペア活動の機会を増やしている。 ◇児童が主体的に取り組むことができるように、導入の工夫をする。 ◇伝え合う活動に入る前に、どんなことを話すといいか、伝え合う観点を児童に伝える。 うまくできているペアや内容を紹介し、周りに広げていく。
2	低学年担任	B先生 (定年退職後、講師)	○単元で身に付けさせたい力、単元のつながりは、理解している。 ○児童の実態を知りたいという気持ちは強い。	◇解決したいと思わせる問題提示。 ◇既習内容と本時の違いを意識させる。 ◇小グループでの時間を設定し、表現する場を多くもつ。 ◇まとめの後の練習時間を5分は確保する。
3	低学年担任	C先生 (新規採用)	○授業時、声の大きさを工夫して説明したり、抑揚をつけて話すことができる。	◇めあてに対応した適切なまとめを行う。 ◇授業内容に合っためあてを提示し、児童が取り組みたいと思える内容の授業を行う。

小グループにおいて、情報交換を通じて、ブラッシュアップを図る。最終的に、一覧表にまとめ、全体会にて 各自が宣言する。

年間の計画 学期毎に進捗を確認し、適宜、修正

令和5年度 校内研 小グループ研究授業 公開一覧 3月22日現在

	1-1藤松	2-1末次	2-2牛島	3-1安田	4-1武藤	5-1大野	5-1紅	6-1三好	6-2岡	みのり1 村山	みのり2 服巻	みのり3 幸田口	みのり4 徳原
5月	【下】(課題) どんとどん	【上】(課題) 鉄道のゆくえ											
6月			【上】(課題) ゆふい あそび		【上】(課題) たなかのけり 伝説 伝承				【下】(課題) 分岐のけり				
県教育事務所 訪問 6月28日(水)													
7月			【上】(課題) あのかで	【上】(課題) わんぱく									
8月													
9月													
10月	【下】(課題) たし算	【上】(課題) ききおとま ききおとま	【下】(課題) アリスよき べててててて	【下】(課題) アリスよき べててててて	【上】(課題) アリスよき べててててて	【下】(課題) アリスよき べててててて	【上】(課題) アリスよき べててててて	【下】(課題) アリスよき べててててて	【上】(課題) アリスよき べててててて	【下】(課題) アリスよき べててててて	【上】(課題) アリスよき べててててて	【下】(課題) アリスよき べててててて	【上】(課題) アリスよき べててててて
11月	【下】(課題) 「どんとどん」 高橋のりこ	【下】(課題) 「どんとどん」 高橋のりこ	【下】(課題) 「どんとどん」 高橋のりこ	【下】(課題) 「どんとどん」 高橋のりこ	【下】(課題) 「どんとどん」 高橋のりこ	【下】(課題) 「どんとどん」 高橋のりこ	【下】(課題) 「どんとどん」 高橋のりこ	【下】(課題) 「どんとどん」 高橋のりこ	【下】(課題) 「どんとどん」 高橋のりこ	【下】(課題) 「どんとどん」 高橋のりこ	【下】(課題) 「どんとどん」 高橋のりこ	【下】(課題) 「どんとどん」 高橋のりこ	【下】(課題) 「どんとどん」 高橋のりこ
12月		【上】(課題) ききおとま	【下】(課題) アリスよき	【下】(課題) アリスよき	【下】(課題) アリスよき	【下】(課題) アリスよき	【下】(課題) アリスよき	【下】(課題) アリスよき	【下】(課題) アリスよき	【下】(課題) アリスよき	【下】(課題) アリスよき	【下】(課題) アリスよき	【下】(課題) アリスよき
1月	【下】(課題) おれいひさ		【下】(課題) 「かくし」 おれいひさ		【下】(課題) 「かくし」 おれいひさ		【下】(課題) 「かくし」 おれいひさ		【下】(課題) 「かくし」 おれいひさ		【下】(課題) 「かくし」 おれいひさ		【下】(課題) 「かくし」 おれいひさ
2月				【下】(課題) 「かくし」 おれいひさ									
3月													

校内研究の流れ その2 【事前】

- ① 1週間前までに実施する校時、教科、単元などを研究主任と教務主任に伝える。
- ② 教務主任は小グループのメンバーが授業参観できるように調整を図る。
- ③ 課題改善の手立てを記した「授業構想シート」を作成し、2日前までに全教職員に配付する。
- ④ さらに、所定の場所にデータを保管し、いつでも誰でも見ることができるようにしておく。

授業構想シート

学習指導案の代替として使用

第○学年○組 ●●科 授業構想シート

○月○日○時 教室
指導者 ○○○○

1 解決を目指す自分自身の課題

2 単元(題材)名 ()

3 単元(題材)の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

4 本時に位置付ける評価規準 と おおむね満足できる状況(B)と判断する目安
本時の評価規準

知・技	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
思・判・表		
態		

5 目標実現及び自らの課題解決のための手立て

児童の活動 (ポイントとなる箇所のみでよい)	教師の指導・支援の手立て (試み)

※A4用紙1ページに収まるようにする。行間、フォントサイズは自由に調整してよい。

【項目】

- 1 解決を目指す自分自身の課題
- 2 単元(題材)名
- 3 単元(題材)の評価規準
- 4 本時に位置付ける評価規準とおおむね満足できる(B)と判断する目安
- 5 目標実現 及び
自らの課題解決のための手立て

校内研究の流れ その3 【本時】

- ① 参観するメンバーは、授業の妨げにならないように参観する。(勝手に指導したりしない)
- ② また学年に応じて、参観者が来る旨とその理由を児童に説明し、普段通りの授業が行われるようにする。
- ③ 授業者、参観者(必要に応じて児童)は、授業後に評価シートを用いて簡単な評価を行い、記録しておく。

参観している同じグループの先生たち
この日は教育実習生もいましたので、3人ですね。



校内研究の流れ その4 【事後】

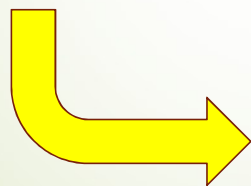
- ① 授業者と観察者は、評価シートを用いた評価の結果を参考にしながら、できるだけ間を置かず、小グループでの振り返りを必ず行う。
- ② 評価結果を参考にしながら、授業者と観察者の評価において明らかになった相違点などを話題にするとよい。
- ③ 授業者は、振り返りを基に授業の記録を残すとともに、新たな課題を設定し、次回にむけて授業改善に努める。

小G研の授業を行った日の放課後
グループでこの日の授業のことで和やかな振り返りが行われています。



校内研究の流れ その5 【年度末】

- ① 年間を通して、4回の授業記録をまとめるとともに、年度末に自分の課題の解決状況や次年度に向けての新たな課題などについての振り返りを行い、レポートをまとめる。
- ② これらを取りまとめて「研究のまとめ」とする。



研究のまとめ 各自、A4 2ページ

金立小学校 令和5年度 My 授業研究の振り返り 氏名 _____

中 (11回目)

10月24日(火) 5時間目 教科等 算数 単元 「食で元氣! ご飯とみそ汁」 (5/10) 本時の目標 かき揚げなど 本時の目標 だしのよさを考えよう。	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など) ・めあての達成をせず活動に入ってしまった。 ・本時の考えを明確に示してなかった。 ・かき揚げで、だしの良さについて考えることで、子どもたちが思ったことを、子どもの言葉で共有することができた。	次週への見通し (次回、取り組めたいこと) ・めあての達成の徹底 ・グループ活動で、一人一役を振り分け、全員が発言したり、仕事をしたりできるようにする。
--	---	---

12回目

11月 8日(水) 2時間目 教科等 算数 単元 「平均」 (3/5) 本時の目標 100入った平均の求め方を考えよう。	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など) ・前時の取組との違いに気付かせたことで、様々な考えを引き出すことができた。 ・児童が自分の考えを説明したこと、聞いてる児童だけでなく、説明している児童もしっかりと考えることができた。 ・グループ活動が短く、全員が考えを説明できていなかった。	次週への見通し (次回、取り組めたいこと) ・活動の時間配分を考え、全員が考えを共有し、深めることができるようにする。
---	--	---

13回目

12月 14日(木) 3時間目 教科等 算数 単元 「四角形と三角形の面積」 (7/11) 本時の目標 台形を2通り分けて面積を求めよう。	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など) ・図形を分割し、自分の考えを言葉や図で書き、説明することができた児童がいたことはよかった。 ・一人でタイムの時間を多くとってしまい、みんなでタイムの時間が短く、考えを深める時間があまりとることができなかった。	次週への見通し (次回、取り組めたいこと) ・子供の考えを分かりやすく共有するための教材の準備。 ・考えを共有し、深める時間を多くとる。
--	---	---

14回目

3月 5日(火) 4時間目 教科等 体育 単元 「バスケットボール」 (7/7) 本時の目標 ・フリースペースに入り、パスを回して、シュートにつなげることができた。	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など) ・事前運動の前に、パスやシュートの練習を、ゲームを想定して工夫して行うチームがあったことはよかった。 ・フリースペースを見つけ、自分から動いてパスをもらおうとする児童が多く、良かった。 ・チームで役割を考えたり、ゲームの後に振り返りを行い、振り返りする時間を十分にたることができなかった。	次週への見通し (次回、取り組めたいこと) ・児童が自分からポイントを考えられるような問いかけを行う。 ・作戦タイムや、振り返りの時間をしっかりと確保する。
---	--	---

校内研究の振り返り

〇〇〇〇(5年1組担任)

自分自身の課題

・児童が興味・関心を持てるような導入の工夫
・考えを深めるための発問や活動方法の工夫
国語 言葉 → 辞書の活用
算数 計算 → 意味を考えさせる → 繰り返し練習 等

〇授業づくりチェックシートの活用について

・「めあて」や「まとめ」の取組をどの教科でも活用し、つながりを意識することができた。
・「ひとりでタイム」や「みんなでタイム」など、活動の工夫を児童の学習の発展に合わせて工夫することができた。

・振り返りの時間を十分に設定することができないことが多かった。今後は振り返りの時間を設定することができるよう、導入や活動の時間配分を考えていきたい。

〇自分自身の課題について

① 児童が興味・関心をもてるような導入の工夫

・前時の内容を振り返りながら、実生活のことと結び付けながら行った。そうすることで、学習の見通しをもつ、自分から取り組むようになった。

② 考えを深めるための発問や活動方法の工夫

・算数の時に「図形」の学習では、公式を覚えるのではなく、最初に図形を押し、違つたに気づいたり、解くことができた形に分けたり、自分なりに解く方法を考えることができる工夫を行った。
・図形の学習では、分からない言葉には線を引き、辞書を使って意味を調べさせるようにした。また、意味調べで分かったことを共有することで、手帳の中でより言葉の意味を深めることができたようにした。

〇取組の成果と課題

【成果】

・高学年グループの先生方の授業を見せていただき、発問や活動の工夫など、とても勉強になった。いろいろな教科を見ることで、算数以外の工夫を知り、多くの教科で活かすことができた。
・先生方に参観していただくことで、授業や発問、活動方法など、自分のできていないことを見直し、さらに工夫して行うための方法を学ぶことができた。

【課題】

・グループ活動を行う際に、一人一人の役割を決めたり、発言する順番を指示したりして、全員が意見を発言し、役割をもてるように活動を仕組んでいる。
・児童の考えをより深めるために、児童の発言に対する発問を工夫したり、共有・説明する役割を設けたりしている。

校長としての組織マネジメント

- ① 目指すべき方向を示す
 - ☛ プチ講話 校長だより
- ② コーディネーター、ファシリテーターとしての研究主任を育成する
 - ☛ 研究主任のよき相談役となる
- ③ 好事例を示す・共有化を図る
 - ☛ 職員室での話題 学校HP 全体会
- ④ 学校がもっている資源を活用する
 - ☛ 目指す児童の姿 学習の約束

令和5年度は主だって年間4回実施

12月20日 プチ講話と演習
これまでの振り返りとこれから
の見通し

適宜

③ 好事例を示す

■ 学校HPのイベントギャラリー

高学年の小G研（6年2組 岡先生）

入力日 2023年12月2日

閲覧数 126

金立小学校では、「普段の授業を不断に見直す」ということを合い言葉に、それぞれの先生方が学級の子どもの実態や自らの指導などを振り返りながら課題を設定し、その課題解決に向けて、年間4回（目安は1学期1回、2学期2回、3学期1回）の小グループによる研究授業に取り組んでいるところです。



11月29日（水）3校時は、6年2組学級担任の岡先生の算数の授業で小G研が行われました。

自分の考えを友達と伝え合いながら、いろいろな考え方がることを確かめていました。



④ 学校がもっている資源を活用する

■ 目指す児童の姿 学習の約束

【「めざす児童のすがた」の実態および手立て】

A 自分の考えを表現する(かく)すがた

学年	めざす児童のすがた	「めざす児童のすがた」に せまるための手立て
1年生	自分の考えをかくことができる。	・かくことに慣れさせるために、ノートと同じマス目の黒板に板書する。 ・うまくかいている児童のノートの良い例として示す。 ・操作活動を十分に繰り返して行わせる。
2年生	自分の考えを、絵や図、短い文を使ってかくことができる。	・分かりやすく短く書いてある児童のノートを取り上げ、なぜ良いのかを考えさせる。
3年生	自分の考えをもち、図、式、言葉などを使って、分かりやすくかくことができる。	・友達の良いところを具体例を挙げて称賛する。 ・見直しを促す。 ・ノートの添削を行い、称賛することで意欲を高める。 ・図、式と説明文を合わせて記述するよう指導していく。
4年生	自分の考えを持ち、図、式、言葉などを関連させて、分かりやすくかくことができる。	・友達の良いところを具体例を挙げて称賛する。 ・ユーザル式のノート記述を徹底させ、主体的に学ぶ学習環境を全体に広げる。 ・ふりかえりを毎時書く際、視点を示し、生活との関連



金立小学校 学習の約束

1 授業の始まり

- ☆時計を見て、授業が始まる前には席につきます。
- ☆よい姿勢で、先生に注目します。
- ☆あいさつは、おじぎや声をそろえます。



2 学習中

- ☆背筋を伸ばし、足を床につけて座ります。

3 発表の仕方

- ☆名前を呼ばれたら、「はい！」と返事をします。
- ☆聴いている人を見ながら、その場に合った声の大きさで、わかるように話します。



4 話の聴き方

- ☆話をしている人にへどを向け、顔を見ながら話を聴きます。
- ☆話の途中で口をはさず、最後まで静かに聴きます。

5 授業の終わり

- ☆次の学習の準備をします。

成果と課題とこれからの展望

- 授業のことや子どものことを語る教師間のインフォーマルな会話が増えた。
- 教師一人一人が目指している授業が分かりやすくなり、アドバイスがしやすくなった。
- 取組の汎用性が高く、幅広い教科における授業力アップにつながっている。
- グループ研究の質を向上させるにはどうすればよいか。
- 自己管理がうまくできない教師へのサポートをどうするか。
- 学校評価の成果指標や人事評価の業績評価の学習指導の目標と明確に紐づけをする。

おわりに

- 最終的に求めるべきは子供の変容(成長)ではあるが、まずは教師自身が変わること(成長すること)を促す。
- 教師自身の「気付き」を促すことが大切である。そのために「他者のまなざし」を入れることが必要である。
- 「～ねばならない」研究ではなく、(少し楽しみながら)「～したい」と思える研究になるとよい。
- 基本的に、個々の教師の「主体性」を信じ、「主体性」に委ねる研究である。
- 「普段の授業を不断に見直す」ことができるようになるための研究と捉えている。